

# 経営比較分析表／団体全体（令和4年度決算）

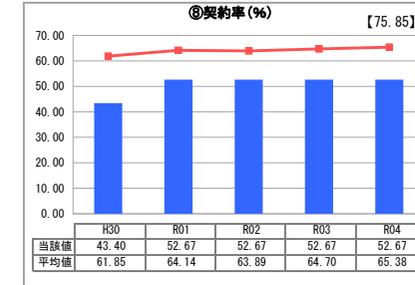
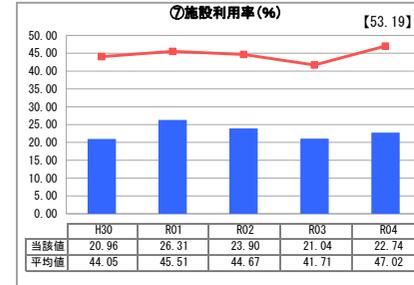
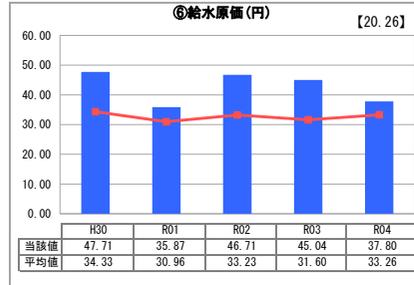
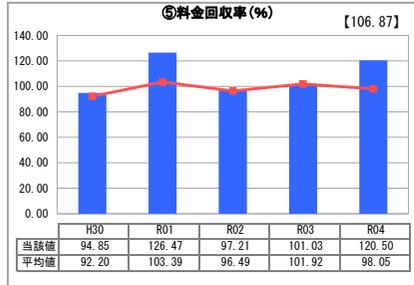
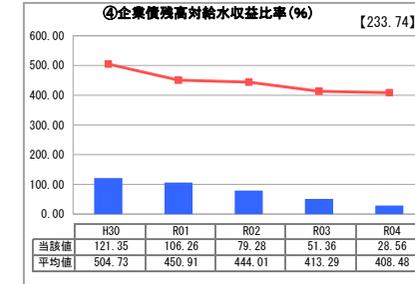
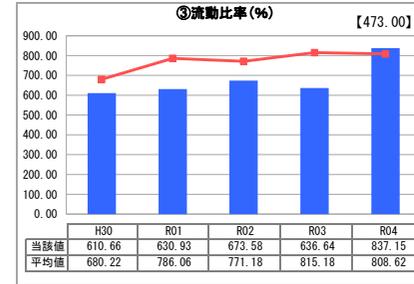
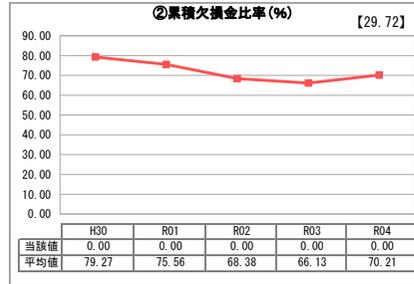
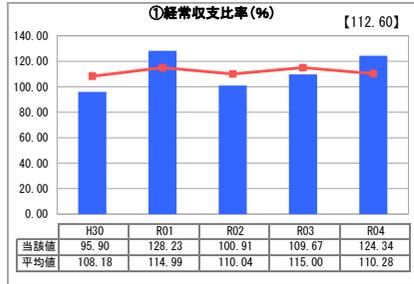
新潟県 小千谷市  
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m <sup>3</sup> /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m <sup>3</sup> )
法適用	工業用水道事業	18,700	小規模	1	4,253
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m <sup>3</sup> /日)	管理者の情報	
-	91.7	4	9,850	非設置	

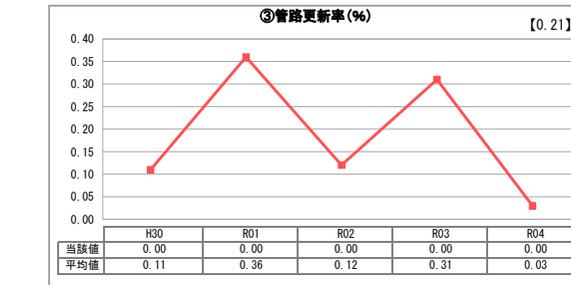
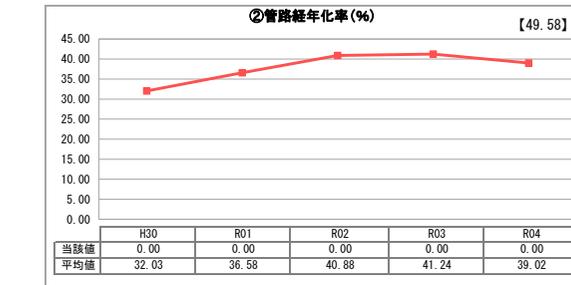
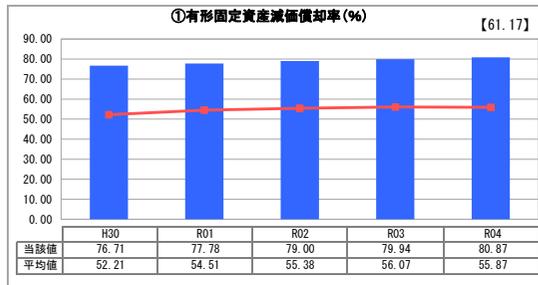
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、修繕費の大幅な減少等により経常費用が減少したことから上昇し、類似団体平均値と比較しても高い水準となった。  
 ② H30年度は赤字だったもののそれ以降は黒字経営を続けており、累積欠損金は無い。  
 ③ 流動比率は、企業債の償還が進み流動負債が減少したこと等から上昇し、類似団体平均値を上回った。  
 ④ 企業債残高対給水収益比率は、H10年度以降企業債の新規借入がなく、企業債残高の減少に伴い低下している。  
 ⑤ 料金回収率は、上記①の理由により料金で回収すべき費用が減少したことに伴い上昇し、類似団体平均値と比較しても高い水準となった。  
 ⑥ 給水原価は、上記①で述べた経常費用の減少によりR3年度と比較して減少した。  
 ⑦ 施設利用率は、R1年度より施設の余剰能力の一部を活用した水道事業との共同利用開始で上昇した後、使用水量の減少により低下傾向となっていたが、R4年度は若干持ち直した。  
 ⑧ 契約率は、R3年度と同じだが、依然として全国や類似団体の平均値より低い水準となっている。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、S59年度の給水開始から30年以上が経過しており、全国や類似団体の平均値と比較しても高い水準で推移している。  
 ② 管路経年化率は、法定耐用年数を経過した管路がまだ存在しないことから0%となっている。  
 ③ 管路更新率は、②で述べた理由により管路の更新に着手していないことから0%となっている。

## 全体総括

R元年度より水道事業との施設の共同利用を開始し経営の効率化を図ったが、R2～R3年度は退職給付費や修繕費の増加から経常収支比率や料金回収率、給水原価等の指標は悪化した。R4年度はこれらを含む経常費用が減少したことから改善が見られた。  
 大口需要家の水需要はR4年度は若干持ち直したものの依然低水準のままであり、施設利用率や契約率も同様であることから、今後も大口需要家の動向に注視する必要がある。  
 給水開始から30年以上が経過し施設や設備の更新時期を迎えていることから、今後は施設規模の見直しを検討も含め、安定的な事業運営に努めて行くことが必要と考えられる。